

## デフォルトを機に改めて思ったこと

～私にはぶれない芯がある どんな状況でもともに歩む仲間がいる 同志がいる～

年の瀬も迫った 12月19日、ガーナ政府は正式に債務不履行を発表しました。2022年、世界中がウクライナ情勢の影響を受け、インフレも収まること無き中でのこのデフォルトの発表は、改めて自分自身が持っているぶれない芯、そしてどんな状況下でもともに歩む仲間、そして信念を曲げずともに進む同志がいることを再確認することが出来ました。

2022年を振り返り、学校では前年に続きガーナの先生と一緒に授業をすることが増えてきて、これまで以上に（共に作り出す授業）としてやりがいを感じるようになりました。特に幼稚園層から低学年層への絵本の読み聞かせと工作の情操教育の授業を考えるのが楽しくもっと力を入れたいと思うようになりました。土曜日のそろばん教室の再開には至りませんが、5,6年生でのそろばんの授業では、子どもが計算を理解した時に見せるうれしそうなお顔が、私のやりがいへと繋がっているんだと確信しました。

日本への一時帰国を見送って今年で3年になる中、このようにして学校での活動はもちろんの事、本購入のご協賛を得てから始めた GEISHA 缶のレシピ考案が楽しくて、時々（このまま日本に帰らなくてももしかしたらやっつけていけるかもしれない。）という錯覚さえ起こりますが、すぐに消え来夏こそ日本に一時帰国すると強く思い願うのです。

来夏、日本への一時帰国が叶ったら、ガーナでの活動資金作りをまた再開したいと考えています。セミナー講師などさせていただきたく、これらはガーナの子どもに還元していきたいと思しますので講師依頼、またはイベント開催の仕事を戴ければたいへんうれしいです。

2023年1月、ガーナで14回目の誕生日を迎えます。2010年の1月は2週間の滞在中で誕生日を迎え、その2週間の滞在をきっかけに同じ年の秋にガーナに戻り、以来冬の凍える寒さも体験せず、冬生まれなのに寒いのが苦手と言いながら、暑くてハマターンの埃っぽい乾燥の季節に14回目の誕生日となるわけです。“いつかは南の島のサモアで暮らす”とサモアに恋焦がれ南太平洋のバックパッカーをしていた私はサモアへの想いは薄れ、ここガーナで未来ある子どもたちの為に努めていきたいと思っています。どんなに物価が高騰しても政府が債務不履行を発表しても、日本に私を待っている人たちがいるように、ここガーナにも私を待っている子どもたちがいるので、1ミリともぶれない芯を持って邁進していきますので、2023年もどうぞよろしくお願いいたします。

★國分敏子 ガーナ挨拶 No54 27/12/2022

